

藤塚浜 新潟県立紫雲寺記念公園

教頭 久保田 理美子

先日、3年生社会科の授業に、講師として元紫雲寺町町長の鬼嶋 正之さんが来校された。昭和30年に藤塚浜と紫雲寺村が合併して紫雲寺町になったこと、町政施工30周年の昭和60年に、緑や海などの自然を守りながら元気のある町にするために、「新潟県立紫雲寺記念公園」、その中の施設の一つである「愛鳥センター紫雲寺さえずりの里」ができたことなどお話しいただいた。先を見通して、施設の名称の中に「紫雲寺」を入れたとのことであった。3年生の子どもたちにとっては少し難しい内容だったかもしれないが、なかよし遠足や探鳥会で利用している身近な公園だけにそのような秘密があったなんて！とばかり、目をきらきら輝かせながら、夢中になって鬼嶋さんの話に聞き入っていた。大事に守っていかなければ荒れ果ててしまう、だから、これからのみんなに公園をかわいがってほしい。ご講話の最後の言葉には、鬼嶋さんの子どもたちに託す願いが込められていた。

本間 亮一 地域コーディネーターを迎えて1年目のしばた心継承プロジェクト。地域と学校をつないでくださる本間さんの存在によって、職員が安心して地域学習の教材研究を進め、試行錯誤ではあるが積極的に形にしていくことができた。地域の方々の言動にふれる貴重な機会を得ることができたことは成果である。

市教育委員会の指定を受けての、同和教育研究推進委託事業一年次。職員による教材開発、外部からの講師や参会者を招いての公開授業。人権学習をとおして、相手意識を大切にしながら心を耕す子どもたちが、地域学習をとおして、地域に愛着をもち、やがては地域を動かす担い手となるような人間の育成につなげていくことができればと願う。

2020年。地域の皆様、保護者の皆様のご支援ご協力により、この年を乗り切ることができましたことに、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

年明けは、GIGA スクール構想の実現に向けて児童1人1台端末の整備が進められます。with コロナの時代、子どもたちの成長を地域・保護者の皆様とともに支えていける学校づくりを目指して、職員一同歩んでいきたいと思っております。

それでは、よいお年をお迎えください。



「前よりも地域のことがよく分かるようになりましたか。」という問いに、全校児童の94.9%が肯定的な評価をしました。今月号では、しばた心継承プロジェクト第2弾として、3・6年生のしばた心継承プロジェクトの実践を紹介いたします。